

平成 26 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

- 箕面東高校が一貫して取り組んできた、生徒一人ひとりを大切にする教育を基盤とし、平成 27 年度のエンパワメントスクールへの再編を機に、これまでの実践をさらに発展・拡充し、社会人として必要な資質・能力を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する学校をめざす。
- 教職員一同が、生徒一人ひとりの教育に全力を注ぐことにより、入学する生徒たちが「箕面東高校が自分にとって最も一番いい学校」であり「箕面東高校を母校として頑張るといふ決意を持てる学校」となることをめざす。

【めざす生徒像】

- 確かな学力を身につけ、自分の進路を探究し、自己実現するための逞しく生き抜く力を持つ生徒。
- 豊かな心の育成に努め、「果たすべき役割」と「守るべき規範」を自覚し、将来社会に貢献するという志を持つ生徒。
- 自己の課題が発見でき、解決、克服できる力を持つ生徒。
- 社会人としての主体性を確立するとともに、自らの考えを社会に発信できるコミュニケーション能力を持つ生徒。
- 生涯にわたり学ぶことの大切さを理解できる生徒

2 中期的目標

1 「わかる喜び」や「学ぶ意欲」を引き出す授業作りの推進

- (1) 平成 27 年度の E S (エンパワメントスクール) への再編をにらみ、基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善に取り組む。
 - ア 教科の枠を超えて学習指導について研究協議するため「学習指導研究チーム」を立ち上げ、「わかる授業」のための教材開発と授業方法の改善を図る。
 - イ 社会人として必要な基礎学力の定着をはかるとともに、体験型授業を工夫して「生きる力」をつけさせる方策について研究する。
 - ウ 生徒に自信をもたせる手立てとして、各教科・科目で資格検定を活用した授業作りを意識し、資格・検定の合格者の増加をはかる。また、高校生対象の各種公募への参加を促す。
- ※資格・検定合格による単位認定者(25 年度 70 人)を毎年 10 人ずつ増やし、平成 28 年度には 100 人とする。

2 自己実現のためのキャリア教育の推進

- (1) 箕面東版デュアルシステムの取り組みを充実させる。
 - (2) 総合的な学習の時間を活用し、キャリア教育の推進をはかる。年間を見通した計画的なプログラムを策定して、自己理解をすすめる、進路実現をはかる。
 - ア 大学・専門学校・民間企業等の外部資源を積極的に活用し、的確な進路選択をする力を育成する。
 - イ 入学から卒業・進路実現を見通したキャリア教育を計画的に推進する。
- ※生徒向け学校教育自己診断のキャリアガイダンスに関する項目における肯定率(25 年度 73%)を 28 年度には 75%にする。

3 生徒指導と相談体制の充実

- (1) 不登校生、様々な障がいのある生徒、再チャレンジなど多様な生徒への学校定着と自己実現をはかる環境を整える。
 - ア 各年次団に支援教育コーディネータを配置し、個別の支援計画を作成して、進路実現をはかる。
 - イ 第 2 相談室を開設し、NPO 法人とも連携し、生徒の居場所活動に取り組むことにより、不登校生徒の防止をはかる。
 - ウ 教育相談委員会を中心に支援学校や子ども家庭センターなどとの連携を強化し、研修会・事例研究会を頻繁に開催し教員のスキルの向上を図る。
- ※生徒向け学校教育自己診断の相談体制に関する項目における肯定率(25 年度 54%)を 28 年度には 60%にする。
- (2) 安心な学校生活・授業規律を維持する組織的な取り組みで生徒の規範意識を育む。
 - ア 生徒が授業に集中し主体的に学習できる体勢作りをする。
 - イ 登下校時のあいさつ運動や地域に貢献する運動を展開する。
- ※授業アンケートにおける授業態度に関する自己肯定率(25 年度 77%)を 26 年度に 80%とし、それを維持する。

4 地域社会と連携する学校づくり

- (1) 地域の教育資源を活用しつつ、本校の教育システム理解を深めるための情報発信を展開する。
 - ア クリエイティブスクール展を外部会場で開催する。
 - イ 文化祭等に地域の方の参加の機会を設け、地域連動型の文化イベントする。
 - (2) 生徒会行事や部活動を通じて、集団作りと連帯感の育成をはかる。
 - ア 部活動の加入率を向上させ、学校への帰属意識と連帯意識を育む。
 - イ 生徒会と部活動が中心となり、地域住民を巻き込んだイベントを企画し、地域に愛される学校をめざす。
- ※部活動の加入率(25 年度 45%)を平成 28 年度までに 50%にする。
- (3) 中学校への広報活動を強化する。
 - ア HP をリニューアルし、情報発信力のあるページに刷新する。
 - イ 中学校向け広報誌「みのひがレター」の刷新と拡大を図り、本校の教育システムへの理解を深める。
 - ウ 中高連絡会を復活させ、中学校との情報交換を密にする。また、中学校訪問を積極的に行い、本校の教育システムの理解と支持を得る。
- ※本校HPへの年間アクセス数(25 年度 25,000)を 28 年度には 28,000 にする。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 27 年 1 月 15 日実施分]	学校協議会からの意見
<p>[生徒指導]</p> <p>○((3)箕面東高校への入学は希望通りでしたか。はい 82.7%)((4)入学してからの高校生活は楽しいですか。肯定的 79.0%)と高校生活を充実させている。これは((3 6)学校に自分の居場所がある。はい 79.5%)に関係が深い。これはチューター室・中庭・渡り廊下・めいぶるカフェなど校内にリフレッシュできる場所が多くあるためである。</p> <p>○((6)箕面東の先生に信頼できる先生がいますか。いる 65.2%)((7)箕面東の先生とコミュニケーションが取れていますか。はい 68.8%)((8)箕面東の先生は生徒の気持ちを分かってくれていると思いますか。思う 52.6%)とそれほど高くない。しかし、教員側の意識としては((1 9)この学校では、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っている。80.3%)((2 2)教育相談体制が整備されており、生徒はチューター以外の教職員とも相談することができる。88.5%)((2 3)この学校では、生徒指導において、家庭との連携ができています。88.3%)と積極的に取り組んでいるという意識が高い。箕面東には多様な個性を持った生徒が在籍してお</p>	<p>第 1 回 (6/21)</p> <p>○本年度の重点目標と取組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学で学生自身に自己評価をさせ「自分」を把握させている。箕面東の生徒にも自身の状況を確認させるシステムを作ってみてはどうか。 ・学ぶ目的をしっかりと理解させることが重要。【めざす生徒像】に掲げている「果たすべき役割」「守るべき規範」を自覚させることは非常に重要である。 ・さまざまな教師と出会ってきたが、振り返ってみると「いい教師」はしっかり叱ってくれる教師だった。そういう意味である程度の躰は大切である。 <p>○エンパワメントスクールへの再編整備について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの箕面東高校の特徴、実績を踏まえながら進めていくべきと考える。 ・不登校傾向にある生徒にも、学ぶことができる手立てを考えてほしい。 ・教科学習ばかりになるのではなく、社会とつながる力を育む学びを大切にしてほしい。

り、服装指導や遅効指導に対する意識が肯定否定両極にある。これが生徒と教員の意識の差にあらわれたといえる。

[学習指導等]

○((9)箕面東の先生は分りやすく授業をしてくれますか。肯定的 63.8%)、((11)～(19)各教科の学習内容が理解できているか。肯定的 52.5%～82.7%) (若干理数系科目の数値が低い)と前年と比較してほとんど差がない。それに比べ教員側の意識としては((14)生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている。83.6%) ((16)この学校では到達度の低い生徒への学習指導について、全校的課題として取り組んでいる。70.5%)と前年同様高い数値を示しており、学校全体で”基礎学力の充実”の意識を持っているといえる。しかし、国社数理英の生徒の理解度は60%前後で、生徒の学力を教員が把握しやる気を引き出す教材研究が必要である。

[キャリア教育の充実]

○((28)専門学校や大学の先生を招いて行った、分野別実習などのキャリアガイダンスは進路決定に役立ちましたか。はい 74.6%)と高い。同様に教員側の意識も((26)この学校では、生徒が豊かな勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている。88.3%) ((27)生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている。88.5%)と高く、キャリア教育の効果がはっきりと現れているといえる。

[学校運営]

○((55)事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。64.3%→86.7%)危機管理に対する意識が上がっていると考えられる。((67)研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。48.2%→73.3%)学習指導研究チームがICT機器を活用した新しい授業展開の見学などの取り組みが効果を上げているといえる。

○((13)この学校では、思考力を重視した問題解決的な学習指導を行っている。37.7%) ((33)学校として、読書指導に積極的に取り組んでいる。14.8%)は例年低い数値を示している。生徒の家庭学習時間の少なさを示した((22)家庭学習しない。72.4%) ((23) 考査期間中学習しない。22.4%)と合わせて次年度より改編されるエンパワメントスクールの朝学習・モジュール授業の実践で解決していく必要がある。

第2回 (11/8)

○エンパワメントスクールへの再編整備状況について

- ・生徒自身が選択科目をどのように決定し、どう進路につなげるかを、いかに指導していくかが多岐にわたる課題である。
- ・モジュール授業に関連して、学びなおしの活動をしているNPOがあるので地域と連携してはどうか。これまでの面倒見の良さを絶やさないでほしい。
- ・生徒には、基礎知識をつけながら課題解決能力を向上させることが重要である。

○授業アンケートを活用しての授業改善への取り組みについて

- ・授業見学ならびに見学後の面談とアンケート結果の活用を行っている。

○その他

- ・デュアルシステム受講生の、卒業時の進路先が気になるところ。
- ・学力定着と中退防止は最重要課題。ぜひ頑張ってもらいたい。
- ・リニューアルされた学校ホームページは、評判が上々である。

第3回 (2/7)

○エンパワメントスクール1期生受け入れ準備

- ・基礎学力がない生徒が達成感を味わうことでやる気を出させる指導をする必要がある。
→1年次の間に学習上のつまづきをリセットし、2～3年次で進路に向けて取り組めるようにする。30分という短い時間を繰り返すことで集中力を養い、達成感を味わうことができる。
- ・今後、年度途中に習熟度別でクラスを編成していくのか。
→現在、検討中である。
- ・入学直後のオリエンテーション合宿について準備を進めている。高校生活の意識付けや授業規律、学習習慣などを身につけ、進路に向けての指導も行い、目的意識をつける。
- ・仲間づくりや先生とのつながりをつくって学校に行くのが楽しくなることを期待する。
- ・あいさつを習慣づけることが大切である。

○平成26年度 学校経営計画及び学校評価(案)について

- ・「めいぶるカフェ」活用の実人数や不登校生徒の現状についてはどうなっているのか。また、どういう問題が生徒にあるのか。

→不登校生徒については入学年次の数が増えているが、入学当初から登校できない生徒がいる。中間年次から、不登校生が登校できるようになることもある。「めいぶるカフェ」に関しては、上級生がいるために入りづらい生徒もおり、利用の仕方や指導方法がこれからの課題である。

- ・デュアルシステムについて、受け入れ事業者の評価が高かったというのはどういうことか。また、その事業所に就職した例はあるのか。

→評価が高いのは生徒を受け入れることによって事業者側のモチベーションが上がり、良い刺激になったためである。生徒が体験した事業所と同業の職に就くことがまれにある。校内における報告会では、生徒はレベルの高い報告ができていた。

○学校教育自己診断アンケート結果について

- ・家庭学習があまりできていないようだ。読書の時間を確保することが必要。
- ・教員間でアンケート結果について意見交換はされているのか。

→内規の変更に伴い、職員会議などで、教員間で意見を交換する機会が減っている。

- ・アンケートで生徒の実態を把握し、良い点を拾うことは学校の特色づくりにつながる。

○平成27年度学校経営計画及び学校評価(案)について

- ・成績評価などを生徒に伝えて振り返りをさせているか。振り返りをさせるプログラムは用意されているのか。

→授業アンケートの結果等を活用して、振り返りを定着させたい。

- ・NPO法人の連携とは具体的にどこか。就労支援を活用してはどうか。
→茨木市にある「フェルマータ」と連携している。

- ・エンパワメントで2年次に進級させる際には生徒の学力を検証する必要がある。

→教育委員会が作成した到達度テストなどを活用して検証していきたい。

- ・箕面東の生徒は自宅での予習が不足していると聞いた。受け身ではなく、自発的に学習できるような力を1年次で身につけていくべきだ。
- ・クラブ活動の活性化に力を注いでほしい。部活は生徒にとって大きな力になっていく。
- ・みのひがレターを学校ホームページにアップしてみてはどうか。

府立箕面東高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 「わかる喜び」や「学ぶ意欲」を引き出す授業作り	(1) 基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善への取組み ア 「わかる授業実践チーム」による授業法開発 イ 基礎学力の定着への取組み ウ 資格・検定の合格者の増加及び公募への参加の取組み	(1) ア・ガイダンス部長を中心に「学習指導研究チーム」を発足させ、電子黒板やタブレット端末等を用いた研究授業を行う。 ・ES開校に向け、「わかる授業」のモデル教材を開発する。 イ・「箕面東基礎学力到達テスト」を3学年で実施する。 ウ・各種検定・技能審査の合格をめざす選択科目にて試験対策演習を行い、合格者数を増加させる。 ・作文コンクール、創作コンテスト等に積極的に応募し、生徒に成功体験を積ませる。	(1) ア・電子機器を用いた研究授業を年間5回以上行う。 ・各教科でモジュール授業に対応した教案を20プラン作成する。 イ・基礎学力テストを年間2回実施する。 ウ・各種検定・技能審査の合格による単位認定を90人以上とする。 ・各種コンクールへの入選者数を10人以上とする。	(1) ア・「学習指導研究チーム」所属の日本史、数学、物理、保健、美術、英語の若手教員が、ICT機器を活用しての研究授業を10数回実施。(○) また、同チーム主催の自主研修会を3回実施。(△) ・次年度スタートのモジュール授業への準備については、府教委の工程表に沿って、ハコット会議、英数国教科代表者中心に作成(○) イ・9月、1月にテストを実施したが宿題テスト的な内容に偏り、到達度を計るものとは言えなかった。次年度抜本的に見直す。(△) ウ・資格・検定等の受験者数は180名程度の予想。単位認定者数の見込みは60名程度(△) ・各種コンクール等への応募者数60名(芸文連各部門等への応募)入選者数15名(○)
2 自己実現のためのキャリア教育の推進	(1)デュアルシステムの充実 ア 箕面東版デュアルシステムの取り組みの充実 (2) キャリア教育の推進 ア 大学・専門学校・民間企業等の外部資源を積極的に活用し、的確な進路選択をする力を育成する。 イ 入学から卒業・進路実現を見通したキャリア教育計画の推進	(1) ア・受講希望生徒の増加と、受入れ事業所の拡大をはかる。 ・毎週2時間のキャリアアップナビ講座で、専門家による講話に加え、受講生徒の意見交換会の機会を設定し、プレゼン力のスキルアップをはかる。 (2) ア 民間人による講演、大学・専門学校の分野別説明会を有機的に計画する。様々な学校に接する機会を各年次2回設け、オープンキャンパスへの参加を促す。 イ 総合的な学習の時間を計画的に運用できるようにガイダンス部、教務部、年次団担当者の連携により、1年次から卒業時を想定した年間キャリア教育を活用し、全教職員でキャリア教育の全体像を共有する。	(1) ア・受講希望生徒を18人とする。 ・デュアル受講者アンケートでプレゼン力に関する質問での肯定率を85%以上とする。 (2) ア・生徒向け学校教育自己診断におけるキャリア教育の肯定率を75%に引き上げる。 イ・現在、約18%ある進路未決定者の割合を限りなく10%に近づける。	(1) ア・受講者数は16名止まり。現1年生、次年度エフパリ1期生に対しての、情報発信を充実させたい。 ・前後期1回ずつのデュアル発表会でのプレゼンは実習先の来賓者からの評価が高かった。受講者アンケートは自己肯定率93%(○) (2) ア・当初の計画を予定通りに実施。目的に叶った外部人材を選定できた。学校教育自己診断におけるキャリア教育の肯定率：74.6%(25年度：73.2%)(○) イ・進路状況、4年制大学31名、短大10名、専門学校56名、各種学校6名、就職内定者27名、アルバイト・家業手伝い5名、未決定者39名。進路未決定者割合は22.4%(在籍数174名)(△)
3 生徒指導と相談体制の充実	(1)多様な生徒の学校定着と自己実現をはかる環境整備 ア 支援教育コーディネータによる支援教育計画の作成 イ 生徒の居場所活動による不登校防止 (2)規範意識の醸成 ア 授業規律を維持する取組み イ あいさつ運動と地域貢献	(1) ア・支援教育コーディネータを3名に増員し、とりわけ新1年に初めてコーディネータを配置し、「高校生活支援カード」や「教育相談アンケート」を活用して組織的に個別の教育支援計画を作成する。 イ・25年度に開設した居場所活動の拠点「めいぶるカフェ」の機能を拡充し、居場所作りと個別相談活動を両輪とした、不登校・中退予防体制を確立する。 (2) ア・エンパワメントスクールスタートに向け、メロディチャイムを導入し、チャイムが鳴ると速やかに授業に入れる習慣を作る。 イ・部活動による地域清掃を定例化し、地域社会との交流と貢献を進める。	(1)以下の取組みを推進することにより、不登校率20%(H24.24.9%)中退率4.5%以下(H24.6.6%)をめざす。 ア・個別の教育支援計画を18人以上作成する。 イ・相談室による個別面談の実人数(25年度42)を50にする。 (2) ア・授業アンケートにおける生徒取組に関する自己肯定率を80%に引き上げる。 イ・清掃活動に参加する部を10にし、参加人数を延べ200人(25年度141人)とする。	(1) ア・個別の教育支援計画は20名作成。(1年6名、2年9名、3年5名)各学年1名配置した支援教育コーディネータを中心に個々の生徒のニーズに応じた支援を行った。(○) イ・「めいぶるカフェ」活用の実人数は94名。不登校状況は、1年39名、2年47名、3年73名計159名。特に3年生は、例年の倍以上の人数となった。不登校率24.3%(△) 中退率については、約2%(○) (2) ア・授業アンケートの生徒取組自己肯定率は、第1回は82.1%(25年度70.6%)、第2回は、80.8%(25年度70.6%)(○) イ・今年度の地域清掃への参加は、運動部12、文化部11の計22部。12月現在、1部あたり4回実施しており、参加総数は延べ252名(○)
4 地域社会と連動する学校づくり	(1)地域社会との連携した取組み ア クリエイティブスクール展の発展拡充 イ 地域連動型の文化イベントの開催 (2)生徒会行事や部活動を通じての集団作りと連帯感の育成 ア 部活動の加入率を向上させる取組み イ 生徒会と部活動が中心となり、地域住民を巻き込んだイベントの開催	(1) ア・クリエイティブスクール(CS)展を地元箕面市で開催し、CSのユニークな教育実践と改編後のESの特色をく広く大阪府民にアピールする。 イ・「がんばった学校支援事業」予算で設置した「夢と共生のスペース」(屋外ステージ)を活用し、文化祭で地域と連携したイベントをプロデュースする。 (2) ア・新入生対象に体験入部期間を設けて全員に入部体験をさせ、入部率の向上をはかる。 イ・ワールドの授業や文化部の発表会、各種講座を地域住民にも開放し、地域の方に気軽に来校してもらい、生徒との交流を深める機会を作る。	(1) ア・入場者数を300人とする。 イ・屋外ステージで行うイベントに地域の団体を5つ以上出演してもらい、100人以上を招待する。 (2) ア・1年生の部活動の加入率(25年度45%)を50%にする。 イ・新しい企画を2つ以上プロデュースし、地域住民のべ参加者(25年度約400人)を500人以上にする。	(1) ア・11月23日から28日までの6日間、「みのお市民活動センター」で開催。今年度は、CSの教育実践に加え、次年度スタートのESに関することを大きく取り上げた。入場者数は、約600人。(○) イ・参加の外部団体は、地元保育所園児約50名と大阪芸術大学生有志10名の2団体60名に留まった。(△) (2) ア・1年生部活動加入率28%。昨年度より大きく下回った。(△)エフパリ1期生では、入学直後の4月9・10日に宿泊HRの実施を決定。部活動参加促進の取組みを充実させたい。 イ・ワールドの講座では、地域の子育て活動・老人クラブ・保育所・幼稚園等の連携で地域住民が505名参加。(○)